

ドイツ鉄道システム技術会社 (DBST) と 微気圧波に関するシンポジウムを共催するとともに、 新たな共同研究を開始しました

平成 27 年 9 月 29 日
公益財団法人鉄道総合技術研究所

公益財団法人鉄道総合技術研究所（以下、鉄道総研）は、去る 9 月 22 日から 23 日にかけて、「微気圧波に関するシンポジウム」を、ドイツ鉄道システム技術有限会社 (DB Systemtechnik GmbH、以下 DBST) と共同でドイツ・ミュンヘンにて開催するとともに、両組織の幹部による研究開発マネジメント会合を実施し、新たにブレーキ技術に関する共同研究協定書の調印を行いましたのでお知らせします。

鉄道総研と DBST は、2014 年 9 月より、トンネル微気圧波に関する共同研究を実施しています。このたび共同研究の開始から 1 年にあたり、共同研究の成果を総括する「微気圧波に関するシンポジウム」および両者の共同研究の今後の進め方を議論するための研究開発マネジメント会合を開催しました。

本シンポジウムは、共同研究の成果を報告し、当該分野における世界最先端の技術者を招いて、相互の意見交換・情報共有を図る場であり、鉄道総研からは、熊谷則道理事長、渡辺郁夫理事、飯田雅宣環境工学研究部主管研究員をはじめ 10 名が、DBST からは、Hans Peter Lang（ハンス・ペーター・ラング）社長、Nils Dube（ニルス・デューベ）駆動・空調・EMC・騒音・空力部門長、Thorsten Tielkes（トーステン・ティルケス）音響・騒音・空力部長をはじめ 16 名が出席しました。この他、ダンディー大学（英国）、ドイツ航空宇宙センタ、ミュンヘン工科大学、東日本旅客鉄道株式会社、ボンバルディア、シーメンスなどから総勢 50 名を超える方々にご参加いただき、活発なディスカッションが行われました。

本シンポジウムの冒頭、DBST からは Lang 社長が、鉄道総研からは熊谷理事長が、会議主催者代表としてウェルカムスピーチを行いました。熊谷理事長のスピーチでは、本共同研究の意義とシンポジウムの趣旨について述べるとともに、鉄道総研の紹介、鉄道の価値向上のための技術的課題とそれに対する鉄道総研の取り組みについて紹介しました。続いて鉄道総研の飯田主管研究員、DBST の Tielkes 部長らにより、日本とドイツにおける微気圧波に関する課題、測定手法、規制等を概観する講演が行なわれました。シンポジウム全体では、14 件の講演が行われました。

シンポジウムと並行して実施した鉄道総研と DBST の研究開発マネジメント会合には、鉄道総研からは熊谷理事長をはじめ 4 名が、DBST からは Lang 社長をはじめ 4 名が出席し、1 年間の共同研究の成果を総括するとともに、将来の両者の共同研究および研究開発マネジメントに関する意見交換を行いました。この中で、鉄道総研と DBST は、新たに、ブレーキ性能の評価・向上に関する共同研究を開始することで合意し、9 月 22 日に共同研究協定書に熊谷理事長と Lang 社長が調印しました。さらに、今後、衝突安全性、リスク分析・評価、保守の効率化等の分野を対象に、共同研究の体制をさらに拡大・強化することを確認しました。



シンポジウムでウェルカムスピーチを行う熊谷理事長



講演の状況



ブレーキ技術に関する共同研究協定書に調印
前列左から熊谷理事長、Lang（ラング）社長、
後列左から土屋国際業務部長、渡辺理事、Dube（デューベ）部門長、
Minde（ミンデ）ブレーキ部長